
スピリットサッカー R

三代渡吉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スピリットサッカーR

【Zコード】

N4981D

【作者名】

三代渡吉

【あらすじ】

未来の世界。サッカーは飛躍的すぎる進歩を遂げていたらしいです。

ここは遠い遠い、もう言いたくなくなるくらい未来の世界。

そんな未来になつたつて、人間は飽きもせずサッカーサッカー言つてました。

でも、やつぱり同じことしてもつまんないことで、ルールは大分変わつてました、いいんです。未来だから。

「おうおうおうおうおうおう！ 今おつって何回言つたか言つてみる」

「……七回！」

「君は偉い、人を良く見ているなあ、すげえよ。おーいみんな、相手には人を見る目がある奴いるから注意しろよー！」

「そこ！ くだらない話してると退場にするぞ！！」

今では試合前の駆け引きなんて日常茶飯事なもんです。まあ大体はいつもして止められますが。

「あ、てめえ野球の審判じやねえか。土足で踏み入りやがって、このスパイ野郎！！」

「あれれ？ しまつたー！ すいません、うつかり間違えちゃって「知るか！ 食らえええ！ フレイムボンバースパークキーック！！」

「ド――――ン！ という爆発が起きたかと思うと、審判の人は跡形もなく粉微塵になってしましました。もうモザイクかけないと見てられないです。

そうです、もう未来のサッカーは戦場なのです、関係ない奴が入つてこようものなら、こいつうことになつてしまふんです。

あ、ちなみにスパイとか言つてますが、別に野球選手とサッカー選手が戦争してるわけではありません。

邪魔者がいなくなつたところで、よつやく試合開始です。

「キックオフ！！」

「いきなりサンダーライト―ングトルネードシユートオオオオオオ！！バキイツ！！ と人の骨が折れる音がしました。

「アウチ！！ アウチ！！」

ボールを取りにいこうとした相手の選手が、もろにこのサンダーライトなんちやらを足に食らつたのです。

足はもう黒こげ、これでは義足でもつけない限り再起は不可能と言えるでしょう。

めそめそと泣きながら、怪我をした選手は退場して、代わりの選手が入ってきます。

すごいですね、体がでかいし、全身に武装しますよ。こんなものを持ち込んで、何をする気なのでしょうか？

「よくも冗談を…」この試合絶対に勝つぞ…！」

「「「オーウ…！」」

「試合再開！…」

「いぐぜ、ファイナルウルトラスーパーغانデストロイヤー…！」

「…」

チコリーディーディーディーディーと、辺りに弾薬の嵐が飛び交います。見境なしに飛んでいきます。

客席は一応ガラス張りされてますが、予算がなくて、あんまり頑丈じゃありません。

関係ないところに放たれた弾薬のいくつかが、客席に飛んでいつたかと思うと、あとはもう周りのガラスが真っ赤になるだけでした。 キャーーキャーーー！ という歓声が辺りから巻き起こります。

これは派手ですから、盛り上がるんでしようね。

「おのれーーー！！！ まずはお前から潰してやるせーーー！！！ ケレートさぬきウドンが今月はなんと大特価で半額だぞパーーンチーーー！」
「な、何い、こうしちゃいられねえ、スーパーいつてくるぜーーー！」
すると全身弾薬庫さんは、銃を全部捨てて、スタジアムから出て行つてしましました。なんか財布探つてます。完全にお買い物モードみたいですね。

「タイム！！！ くそ、選手補充だ！！！」

、ワグイヤマ襲撃、一ワソビの命を失いました。

「八百屋の佐藤さんだ！ そつちが商売人使ってくるなら、こつち
が『アケイフ嫌がアナウンフ』しかやうであります

「何を！？」

そして佐藤さんか、三三三三三ながら相手チーフへと向かっていきます。

「いつもお世話」なつてゐるからねえ、これ一本サーピスするよ」

すると、全員武器男を退散させた男は、
寝返つてしまつたではありませんか。

い言葉が飛び交っています。

でも言われてる男は、もう佐藤さんの人徳に惹かれまくっています。まるで飼い猫のように手馴れされています。

「再開」

という審判の声と同時に、彼は一斉に元仲間達に襲われてしまいました。

骨の折れる音とか、肉が千切れる音とか、もう後は聞きたくないというような音がしばらく続きました。

彼等が満足してその場を離ると、そこには男の人の骨が転がっていました。

「なんと可哀想なことだ……」

佐藤さんが、哀れな姿になってしまった彼の骨に近づきます。すると、骨が急に爆発しました。

気づいた時にはもう遅し、佐藤さんは爆発に巻きこまれて、見るも無残な姿になりました。

燃え盛る佐藤さんの身体を見て、チームメイト達は、ショックのあまり膝をつきます。

「佐藤さーーーん！！！」

「チクショ、なんてエグイことをしやがる、アイツラアアー！」

「絶対相手チームには負けねーーー！ 佐藤さんの仇をとるぞーーー！」

！」

ついに一致団結した彼等は、仲間の無念を晴らすべく、改めてボールに向かう。

あー、ようやくサッカーらしくなった。

「俺達は絶対に勝つんだ。死んだ佐藤さんのためにも、そして、俺の貴子のためにもーーー！」

ここによく主人公らしい人が出てきましたね、と思つたら一気に試合が始まりましたよ。

彼は、一気にボールを奪うと、跳躍して相手の頭上を舞いました。これぞ無重力の力というものですね。

そして、足に何かエネルギーを溜め込みながら、ムーンサルトキックでもかますように、身体を海老反りさせました。

サッカーなのに、まるで棒高跳びみたいな感じになつてきました。

「へらえ外道ども！－！ 海老菓子ファイヤー－－－－－！」
そのまま彼はショートをぶちかました。物凄い勢い、物凄い
スピードです。

おまけに、これは海老^{えび}の効果なのか何なのかはわかりませんが、すごいカーブしています。

「おの無茶苦茶ながら、わのヒヅコフーテンーカーも真ひ憲してくれ
るはずだ！」

う、うわああああ！！！俺は海老が大嫌いなんだ――――！――で運の悪いことに、キーパーの海老嫌いが発動して、シュー
トは誰にも防がれることなく、入りました。

なります。

やつたー！ と、佐藤さんがいたチームが歓声をあげます。 とて
も部員の良い時間に試合が終つたのです。

かつたんでしょう、残念なことです。

シューートを決めた男はある所に目かけて一直線に走ります。

11

男は、娘の所まで急いで走ります。
でも、元気な娘さんはそこにはいませんでした。

あたのは 錄弾は貫がれて 血みどろになって 倒れてしまふ
の娘さんの死体が倒れています。

そんな……と男はまた膝を一いて、肩を落とした。苦試合に夢中になりすぎて、最愛の娘を失うことになるとは。とても空しい絶叫が、辺りにしばらく反響しました。

「ユニー、すうじ試合でしたねー、解説の畠岡さん？」

「あ、『』みんなさい。漫画読んでもました」

「もうクビにされますよいい加減にしないと。じゃあ、

で、歌手の「ミチー」さんに一 言いただきましょう。

- - - - -

「あ！」知らないうちに撃たれていたみたいですね」「ザ

他の漫画はとにかく面白いらしい。なんとか
なんとかだ――――――！　ちくしょおおお

「……………やうやう話しかけてたじりじり

明日は、アマクダリーズ対セッタイーズの試合をお送りいたします。
では、「きげんよう」

2008年1月某日・とある少年サッカーチーム

「コーキ、俺サツカーやめるよ」

「え？！ どうしたんだ今道！ お前、将来プロサッカー選手にな

「なんていうか……未来のサッカーに希望が持てないんです」

(後書き)

途中から技の名前が寒くなつていいくのを肌で感じていました。報われない貴子。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4981d/>

スピリットサッカーR

2010年10月8日15時29分発行